

平成30年度図書館重点事業 実施報告



令和元年9月

東村山市立図書館

平成30年度図書館運営方針

運営方針

市民の多様な学習スタイルや読書要求に応える情報提供の充実に努めるとともに、東村山市子ども読書活動推進計画を推進する。また、読書に関わるボランティア活動、地域活動を支援し、自治意識を育む生涯学習環境の整備に努める。

重点事業

1 第3次子ども読書活動推進計画の推進

子どもに関わる部署や関連施設との連携、子どもの読書に関わる市民活動への支援等を継続し、年代や生活環境に合わせた取り組みを行う。

- (1) 子どもの読書に関わる市民活動への支援と協働事業の充実
- (2) 学校での読書推進に向けた支援事業の充実

2 資料提供の充実

多様な市民ニーズに対応できる資料をバランスよく収集し、提供方法を工夫することにより、暮らしに役立つ情報提供の充実に図る。

- (1) オリンピック・パラリンピック理解促進事業の実施
- (2) 図書館利用に障害のあるかたへのサービスの充実

3 多文化共生社会に対応したサービスの充実

多文化共生社会に対応した読書支援充実にむけた取り組みを行う。

- (1) 関連機関・団体との連携促進による多文化サービスの充実
- (2) 関連コーナーの活性化及び資料の充実

4 読書環境の整備

施設の老朽化を踏まえ、状況に応じた迅速な対応による安心・安全な読書環境維持に努める。

5 職員体制の充実

業務内容に応じた各種職員研修やOJTにより、利用者への的確な案内・対応ができるような人材の育成を図る。

1. 第3次子ども読書活動推進計画の推進

1-1. 子どもの読書に関わる市民活動への支援と協働事業の充実（継続）

取り組み内容と実績

1. 支援事業

- (1) 『乳幼児への読み聞かせボランティア「図書館くまボラさん」の手引き』作成
図書館から派遣するボランティアが市内各所で活動する際の手順やおはなし会の概要等を書いた手引きを作成。
- (2) 東村山子ども読書連絡会（1回 参加人数 25人）
市内で子どもの読書に関わる活動をしているグループや個人をつなぐ連絡会として開催。図書館からの情報提供や参加者相互の情報交換等を行った。
- (3) 研修会等の開催
 - ◆ 乳幼児への読み聞かせボランティア研修・交流会（2回 参加延べ61人）
乳幼児への読み聞かせで使うおすすめ本の紹介や、情報交換を行った。
 - ◆ 読み聞かせ入門講座（1回 参加人数 34人）
要請に応じて小学校に職員が出向き、保護者対象に読み聞かせの基礎知識を伝えた。
 - ◆ 「東村山うちでのこづち」のおはなし会等への支援を行った。

2. 協働事業（ボランティア派遣等）

- ◆ 乳幼児への読み聞かせ（45か所 356回 ボランティア延べ1,225人）
3～4か月児健診や関連施設での乳幼児への読み聞かせ活動の充実を図った。
- ◆ 小学校等への読み聞かせ（6か所 41回 ボランティア延べ177人）
- ◆ 各種関連団体との取り組み（おはなし会、親子豆本作り教室、「おなかの赤ちゃんと楽しむマタニティ絵本タイム」、「お父さんと楽しむおはなし会」等）

成果

- ◆ ボランティア派遣については、派遣先・ボランティアとの連絡調整を密に行い、安定的稼働ができています。今年度は『乳幼児への読み聞かせボランティア「図書館くまボラさん」の手引き』を作成し、役立てることができました。
- ◆ 子どもの読書に関わる市民へ、活動の状況に応じた研修会・交流会を実施することにより、ボランティアの活動を支援し、活動が充実したものとなった。

課題

ボランティア派遣事業を安定的・継続的に実施していくため、継続的にボランティアを確保し、研修等によるボランティア活動の質の維持・向上も図っていくことが必要である。

図書館協議会からの意見

- ◆ 「お父さんと楽しむおはなし会」は全国的に例がなく、市の特徴ある活動としてもっとアピールするべきである。
- ◆ ボランティアへの研修は今後もしっかりとやってほしい。
- ◆ この方向でさらに充実発展させてもらいたい。

1-2. 学校での読書推進に向けた支援事業の充実（継続）

取り組み内容と実績

学校図書館専任司書（以下「学校司書」）の通年配置7年目となった。

学校司書の配置：指導室予算による配置。12名による2校兼務の体制で、各校には週2日、1日5時間の勤務。うち2名は支援担当として週2日ずつ中央図書館に勤務して図書館職員とともに各校への支援を行う。

<研修等>

- ◆ 学校司書への支援として、全体研修2回、小学校司書研修1回、中学校司書研修1回、自主研修1回、訪問支援11回を行うほか、学校図書館担当者連絡会（3回）を指導室と連携して実施した。うち1回は外部講師を招き、「学校図書館活用で教科等横断的な学びを～読む力と情報活用力の育成～」を実施した。
- ◆ 管理・運営マニュアル『学校図書館の手引き』の更新のほか、学校司書配置に関わる各種調整を指導室・学務課と連携して進めた。
- ◆ 東村山市教育研究会からの求めに応じて職員を講師として派遣した。

<支援>

- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて「調べよう！オリンピック・パラリンピック」として調べるシート46種、調べ方ガイド2種を作成し、図書館事業で使用するとともに、希望する学校へ提供した。
- ◆ 中央図書館に勤務する学校図書館支援担当と連携して、小学校図書館だよりの雛形送付、単元に合わせた本の情報提供を行った。
- ◆ 各校へは学校司書をはじめ教員からの相談に応じて、授業で利用する本の準備・貸出等の支援を行った。また、けやき教室用の学級文庫図書も貸出した。
学校への図書貸出件数 632件（16,665冊）（29年度 617件 16,751冊）
- ◆ 学校へ出向いてのブックトークや図書館見学の受入等を実施した。

成果

- ◆ 学校司書の配置により、各校の状況に応じた学校図書館の整備が進んだ。
- ◆ 教員と学校司書の連携により、授業の中で本を活用する機会が増え、児童・生徒の読書意欲を高める様々な取り組みが行われた。
- ◆ 学校支援担当による訪問支援により、各学校ごとの課題解決に取り組む体制ができ、より深い支援を行うことができた。

課題

- ◆ 引き続き指導室、学務課と連携して、各学校の状況に応じた読書推進の取り組みを支援する。
- ◆ さらなる充実に向けて、学校司書の配置日数の拡大や、コンピュータによる蔵書管理システム導入の検討が必要である。

図書館協議会からの意見

- ・ 学校と公共図書館の連携がうまくいっている。
- ・ 支援担当の制度のおかげで複数の目で運営ができています。
- ・ 引き続き施策を充実させてほしい。

2. 資料提供の充実

2-1. オリンピック・パラリンピック理解促進事業の充実（継続）

取り組み内容と実績

- ◆ 「スポーツ振興等事業費補助金」（東京都 1/2 補助）を活用し、「本で知ろうオリンピック・パラリンピックと世界の国々」事業を実施し、理解促進に努めた。
- ◆ 関連資料を集めた資料展示を中央図書館で5回、富士見図書館で2回、他の地区館で各1回行った。
中央図書館展示「伝統を受け継ぐ民族衣装」、「メダリスト・アスリート」、「I LOVE TOKYO」、「パラスポーツとパラリンピック」、「おもてなし」その他「学んでみよう外国語」「世界一周食紀行」等
- ◆ 「調べよう！オリンピック・パラリンピック」
夏休みに百科事典や本を使った調べ学習として各図書館でコーナーを設置。ワークシートの活用を促進するため、成果物のコピーを掲示するボードを中央図書館に設置した。
補助金による資料購入 620冊（1,608千円）
ほかに、掲示用アクリルボード等を購入



成果

- ◆ 中国とのサッカー交流の紹介・五輪音頭のCD・DVDの貸出などオリパラ担当所管と連携した対応を行うことができた。
- ◆ 都内の図書館合同で行った共通テーマ資料展示「東京でおもてなし～56年ぶりの夢～」に各館で参加することができた。
- ◆ 中央図書館では常設展示の強みを生かしオリパラの公式キャラクターやピクトグラムなども発表に合わせて掲示等による情報発信を行った。

課題

- ◆ 常設展示は、過去の展示と内容が重ならず啓発を続ける工夫が必要になっている。また、開催が近づくにつれて増えていく関連事業の紹介もオリパラ担当所管との連携を密にして取り組むことが求められている。
- ◆ 「調べよう！オリンピック・パラリンピック」コーナーをより活用してもらえるような工夫をさらに続けるとともに、オリパラの啓発の基本に戻って一般の人にもわかりやすいPRを行う必要を感じている。

図書館協議会からの意見

- ・ 来年がオリンピックの開催年のためしっかりと継続して欲しい。

2-2. 図書館利用に障害のあるかたへのサービスの充実（継続）

取り組み内容・実績

1. 音訳ボランティアの育成

- ◆ 東村山音訳の会の28年度募集会員(第9期生)を対象に、デイジー講習会(中級)を行い、デジタル録音資料の作成技術の習得を目指した。
- ◆ 既存会員に対しては、図書館音訳講習会(中級)と、デイジー講習会(中級)を実施し、音訳技術の向上と、デジタル録音資料の作成技術の習得を目指した。

2. 資料提供

- ◆ サピエ(視覚障害者などに音声データなどを提供するネットワーク)を利用したオンラインリクエストの活用が進み、デイジー録音図書利用者提供数が増加した。
29年度 1,232タイトル → 30年度 1,350タイトル
- ◆ 東村山にゆかりのある資料を中心にデイジー図書の作成を進めた。
29年度3タイトル → 30年度8タイトル
- ◆ 新たに録音雑誌「本」(年12回発行)を作成した。

3. その他

- ◆ 「困り感や障がいのあるお子さんのための布の絵本プレイルーム」を開催した。
- ◆ 布の絵本を障害児関連団体に貸出した。
- ◆ 図書館への来館が困難なかたが入所する施設(老人ホーム等)に図書の貸出をした。
(施設数 2か所 貸出冊数 330冊)
- ◆ 東村山音訳の会と懇談会を実施した。
- ◆ 障害者サービスを周知するパンフレット、リーフレットの改訂作業を進めた。

成果

- ◆ 東村山音訳の会と課題や成果を共有する機会を設けることで、円滑に事業を実施することができた。
- ◆ 研修によりデイジー図書を作成する体制を整えられたことで、前年より作成タイトル数を増やすことができた。

課題

- ◆ 障害者差別解消法施行に対応した多様な障害者サービスを実施するには、全館的な業務分担など見直しを進める必要がある。
- ◆ 市広報類の音訳化については、発行所管で責任をもって対応すべきものとして、引き続き関係所管と今後の方向性の調整していく。

図書館協議会からの意見

- ・ サービスのPRを充実させて利用者の増加を目指してほしい。
- ・ 一般の人へもサービス紹介を行なって理解が深まるようにしてほしい。

3. 多文化共生社会に対応したサービスの充実

3-1. 関連機関・団体との連携促進による多文化サービスの充実（新規）

取り組み内容・実績

- ◆ 「多言語おはなし会 いろいろな言葉で絵本を楽しもう」への協力
11月10日（2回実施） 参加 第1回39名 第2回24名
市民相談交流課のイベントに準備段階から協力、韓国出身の市民・中国語教員・英語の話せる読み聞かせボランティア・日本語の読み聞かせボランティアがチームを組んで、読み聞かせだけでなく手遊び、歌遊びなどもとりいれ、好評を得た。



いろいろなことばでじゃんけん



大型絵本を中国語で読み聞かせ

- ◆ 地球市民クラブ主催の「グローバルパーティ」や、「語学学習者による多言語スピーチ大会」の会場に図書館の多文化サービスを紹介するコーナーを設置し、事業の周知を行った。

成果

- ◆ 関連部署や市民との職員同士の交流が深まり、本を揃えるだけでない新たな業務内容に一步前進することができた。
- ◆ 他市の多言語おはなし会を視察した内容をプログラムや当日の進行などに活かすことができた。

課題

- ◆ 多文化サービスを進めていくには、人員体制や語学力等の問題もあり今後も庁内連携や関連する市民団体との協働を深めていく必要がある。

図書館協議会からの意見

- ・ いろいろな言語を音で聴く機会があるのはとても良いことである。
- ・ 市内で多くの外国人を見かけるようになった。今後さらに取り組みを深めていってほしい。

3-2. 関連コーナーの活性化及び資料の充実（新規）

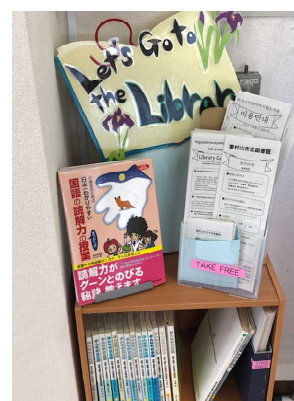
取り組み内容・実績

- ◆ 要望の多い英語多読資料を収集して中央図書館のコーナーの充実を図るとともに秋津図書館にもコーナーをつくための準備・調整を進めた。
- ◆ 中央図書館のコーナーに、図書だけでなく外国人向けの生活に役立つリーフレット類を配布する場所を設置した。
- ◆ 外国人が日本の生活で活用できる日本語や日本で働くためのガイドなどを積極的に収集した。
- ◆ 外国人向けの日本語教室が行われている、「多文化共生・男女共同参画推進交流室」内に図書館紹介コーナーを設置した。

英語・中国語・ハンガルの利用案内と
日本語学習関係書籍の再利用本を配置



交流室の図書館紹介コーナー



成果

- ◆ 中央図書館では、貸出統計や市民相談交流課職員からの情報などで、ある程度利用者の顔が見えるようになって、資料購入のポイントが絞れるようになった。

課題

- ◆ 蔵書数を有効に活用するため、利用の活発な中央図書館中心の配置にしているが、今後のサービス拡大には地区館のコーナーの充実を検討する必要がある。
- ◆ 小学校の英語教育の拡大に向けて、子供向けの英語の本が求められている。現在一定の資料は所蔵しているが、今後は出版も盛んになることが予想されるので、児童担当・多文化担当が連携して資料を整備してゆきたい。

図書館協議会からの意見

- ・ 今後必要度が増していくサービスである。3-1同様さらに取り組みを深めていってほしい。

4. 読書環境の整備

施設の老朽化を踏まえ、状況に応じた迅速な対応による安心・安全な読書環境維持に努める。(一部変更で継続)

取り組み内容・実績

- ◆ 各館とも設備の故障等に、関係所管との連携・協力のもと調整しながら読書環境維持に努めた。

各館の状況（主なもの）

<中央図書館>

- ◆ 読書室、参考資料室の年齢制限緩和・室内環境整備（中学生以上が使用可に変更した）
- ◆ 読書室にフリーW I - F Iを設置（管理：資産マネジメント課）
- ◆ トップライト改修工事（雨漏り防止のため天窓を屋根にする工事）
平成31年2月に1か月休館して工事を実施した。その間、工事の影響がない児童コーナーに臨時窓口を開設し、予約図書の貸出など一部のサービスを実施した。
- ◆ 屋上防水等改修工事設計委託（屋上、内外壁改修工事のための設計委託）

<富士見図書館>

- ◆ ガス空調（GHP）修繕（開架・事務室部分の冷暖房）
- ◆ 照明器具修繕（開架・事務室部分）

<萩山図書館>

- ◆ パーテーション部品修繕（絵本コーナーパーテーションの修繕）
- ◆ エントランス屋根雨樋修繕（萩山文化センターエントランスの雨樋修繕）
- ◆ 萩山文化センター空調修繕（萩山文化センターの空調修繕）

<秋津図書館>

- ◆ 屋上防水工事（秋津文化センター屋上の防水工事）
- ◆ 外壁等改修工事（秋津文化センター壁面を全面的に改修する工事）

<廻田図書館>

- ◆ 全熱器交換修繕（廻田文化センター空調の修繕）
- ◆ 空冷チラー修繕（廻田文化センター空調の修繕）

成果

- ◆ 中央館に中学生が落ち着いて勉強する場を提供できた。
- ◆ 令和元年度に中央図書館で大規模修繕を行うための設計ができた。
- ◆ 各施設の不具合に対応することにより安心・安全な読書環境を提供できた。

課題

- ◆ 各館とも老朽化が進んでいるため、引き続き長期的な見通しを立てて修繕していく必要がある。

図書館協議会からの意見

- ◆ やむを得ず長期休館する場合も、居場所確保の観点から丁寧な対応をしてほしい。

5. 職員体制の充実

業務内容に応じた各種職員研修の充実（継続）

取り組み内容・実績

1. 内部研修

① 日常業務を深めるための研修（専門知識・技能の習得）

図書館新人研修（対象：新任職員・新任嘱託職員）

資料検索研修（対象：職員全員）

レファレンスカウンター研修

新しく参考資料室カウンターに座るために（対象：新規対象職員）

レファレンス フォローアップ研修 年間9回実施

（対象：参考資料室カウンター職員）

児童担当実務研修

ブックトーク研修（対象：経験の浅い児童担当職員）

② 司書教諭と学校司書の合同研修会への参加

「学校図書館活用で教科等横断的な学びを～読む力と情報活用能力の育成～」

専門家から学校図書館を活用した情報活用能力の育成について学んだ。

（対象：児童担当職員）

2. 外部研修への参加

都立図書館や都内の図書館関連団体などが開催する講演会や研修会への参加により、図書館業務に関する知見を深め、より専門的な技能の習得を図った。

成果

- ◆ 職員、嘱託職員共に研修参加により、業務への理解を深めることができた。
- ◆ 他の業務経験を持つ職員と連携して研修を行うことができた。
- ◆ 研修の報告や配布資料を他の職員に回覧することにより、参加できなかった職員にも情報の共有を図り、知識や技能を伝達することができた。
- ◆ 経験年数の浅いレファレンスカウンター担当職員のフォローアップ研修を実施してレベルアップすることができた。

課題

- ◆ 業務の質を高めるためには、館内だけでなく外部研修も有効であり、外部研修へ積極的に派遣していく必要がある。
- ◆ 中央図書館のレファレンスカウンターを担当できる職員は増えたので、今後はそのレベルアップをはかるための研修が必要となる。

図書館協議会からの意見

- ・ 積み上げてきたサービスを継続するために長期的視点で職員配置と育成を考えてほしい。